名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名（英）	保健体育Ⅱ（Health and Physical Education）	必修選択	必修	年次	3	担当教員	米女 博司
学科	柔道整復科	授業形態	演習	総時間（単位）	30	開講区分	1学期
ｺｰｽ	昼間Ⅰ部・Ⅱ部				(2)	曜日・時限	月・木・金曜日 1・4限

【授業の学習内容】

柔道の歴史・柔道場の使い方・柔道着の着方から始め、礼法・受身・形・乱取について学ぶ。
柔道における礼節の重要性を学びながら、受身の練習を徹底する事により怪我の予防に心掛ける。また認定実技審査の受験項目である投の形の「手技」、「腰技」を練習し、技の「間合い」や「理合い」を知る。乱取においては競技性を追求するのではなく、技の理合の習得に努める。また、どのような技で投げられても怪我をしない、どのような技で投げても怪我をさせない様に安全事に重点をおく約束乱取を行う。
※実務経験
柔道整復専科教員免許取得教員　講道館柔道六段

【到達目標】

礼節の重要性を理解し、正しい礼法を習得できる。
基本となる受身を身に付け、怪我する事無く授業を終える事ができる。
柔道における技の「間合い」、「理合い」を理解し、「崩し」、「作り」、「掛け」を用いて形を実演できる。
格闘技である事・相手が怪我をする可能性がある事を行なっているという自覚を持ち、相手に対する敬意、感謝の気持ちを忘れず、相手を尊重し人間関係を築くことができる。

授業計画・内容	
1回目	受身、投の形（手技、腰技）、約束乱取の復習。足技「送足払」の足運びを習得し、実演できる。
2回目	受身、投の形（手技、腰技）、約束乱取の復習。足技「送足払」の足運びを習得し、実演できる。
3回目	受身、投の形（手技、腰技）、約束乱取の復習。足技「送足払」の足運びを習得し、実演できる。
4回目	受身、投の形（手技、腰技）、約束乱取の復習。足技「送足払」の足運びを習得し、実演できる。
5回目	受身、投の形（手技、腰技）、約束乱取の復習。足技「支釣込足」の足運びを習得し、実演できる。
6回目	受身、投の形（手技、腰技）、約束乱取の復習。足技「支釣込足」の足運びを習得し、実演できる。
7回目	受身、投の形（手技、腰技）、約束乱取の復習。足技「支釣込足」の足運びを習得し、実演できる。
8回目	受身、投の形（手技、腰技）、約束乱取の復習。足技「支釣込足」の足運びを習得し、実演できる。
9回目	受身、投の形（手技、腰技）、約束乱取の復習。足技「内股」の足運びを習得し、実演できる。
10回目	受身、投の形（手技、腰技）、約束乱取の復習。足技「内股」の足運びを習得し、実演できる。
11回目	受身、投の形（手技、腰技）、約束乱取の復習。足技「内股」の足運びを習得し、実演できる。
12回目	受身、投の形（手技、腰技）、約束乱取の復習。足技「内股」の足運びを習得し、実演できる。
13回目	受身、投げの形、約束乱取を総合的に復習　各項目を修得し、実演できる。
14回目	受身、投げの形、約束乱取を総合的に復習　各項目を修得し、実演できる。
15回目	受身、投げの形、約束乱取を総合的に復習と確認実技試験、試験終了後試験についての評価する。
準備学習 時間外学習	柔道実技で自己流の予習は非常に危険なので必要ない。授業で行った内容を必ず次の授業までに柔道場に来て復習する事が大切である。
評価方法	実技試験（口頭試問含む）、出席、レポート 評価方法はGPA制度となります 100~90点 S 89~80点 A 79~70点 B 69~60点 C 59点以下 F不合格 定期試験80%出席点　20%
受講生へのメッセージ	第1学年の授業で行う柔道は認定実技審査合格の基礎を作ります。年齢・性別に関係なく最低限の実力をつけてもらう授業内容であり、強さを求めるものではありません。柔道の素晴らしさを知り、楽しみながら身に付けて下さい。

【使用教科書・教材・参考書】

DVD、参考資料

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名（英）	保健体育Ⅱ（Health and Physical Education）	必修選択	必修	年次	3	担当教員	米女 博司
学科	柔道整復科	授業形態	演習	総時間（単位）	30	開講区分	2学期
ｺｰｽ	昼間Ⅰ部・Ⅱ部				(2)	曜日・時限	月・木・金曜日 1・4限

【授業の学習内容】

柔道の歴史・柔道場の使い方・柔道着の着方から始め、礼法・受身・形・乱取について学ぶ。
柔道における礼節の重要性を学びながら、受身の練習を徹底する事により怪我の予防に心掛ける。また認定実技審査の受験項目である投の形の「手技」、「腰技」、「足技」を練習し、技の「間合い」や「理合い」を知る。乱取においては競技性を追求するのではなく、どのような技で投げられても怪我をしない、どのような技で投げても怪我をさせない事に重点をおく約束乱取を中心に行う。
※実務経験
柔道整復専科教員免許取得教員　講道館柔道六段

【到達目標】

礼節の重要性を理解し、正しい礼法を習得できる。
基本となる受身を身に付け、怪我する事無く授業を終える事ができる。
柔道における技の「間合い」、「理合い」を理解し、「崩し」、「作り」を用いて形を実演できる。
格闘技である事・相手が怪我をする可能性がある事をやっているという自覚を持ち、相手に対する感謝の気持ちを忘れず、相手を尊重し人間関係を築くことができる。

授業計画・内容

1回目	受身、投の形（手技）、約束乱取（連絡技）の復習し、より安定した実技が出来るようになる。
2回目	受身、投の形（手技）、約束乱取（連絡技）の復習し、より安定した実技が出来るようになる。
3回目	受身、投の形（手技）、約束乱取（連絡技）の復習し、より安定した実技が出来るようになる。
4回目	受身、投の形（手技）、約束乱取（連絡技）の復習し、より安定した実技が出来るようになる。
5回目	受身、投の形（腰技）、約束乱取（連絡技）の復習し、より安定した実技が出来るようになる。
6回目	受身、投の形（腰技）、約束乱取（連絡技）の復習し、より安定した実技が出来るようになる。
7回目	受身、投の形（腰技）、約束乱取（連絡技）の復習し、より安定した実技が出来るようになる。
8回目	受身、投の形（腰技）、約束乱取（連絡技）の復習し、より安定した実技が出来るようになる。
9回目	受身、投の形（足技）、約束乱取（連絡技）の復習し、より安定した実技が出来るようになる。
10回目	受身、投の形（足技）、約束乱取（連絡技）の復習し、より安定した実技が出来るようになる。
11回目	受身、投の形（足技）、約束乱取（連絡技）の復習し、より安定した実技が出来るようになる。
12回目	受身、投の形（足技）、約束乱取（連絡技）の復習し、より安定した実技が出来るようになる。
13回目	認定実技審査の流れで受身、投げの形、約束乱取りがスムーズに出来るようになる。
14回目	認定実技審査の流れで受身、投げの形、約束乱取りがスムーズに出来るようになる。
15回目	認定実技審査の結果を考慮し、事項において評価指導する。
準備学習時間外学習	柔道実技で自己流の予習は非常に危険なので必要ない。授業で行った内容を必ず次の授業までに柔道場に来て復習する事が大切である。
評価方法	実技試験（口頭試問含む）、出席、レポート 評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格		定期試験80%出席点　20%
受講生へのメッセージ	第1学年の授業で行う柔道は認定実技審査合格の基礎を作ります。年齢・性別に関係なく最低限の実力をつけてもらう授業内容であり、強さを求めるものではありません。柔道の素晴らしさを知り、楽しみながら身に付けて下さい。		

【使用教科書・教材・参考書】

DVD、参考書資料

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名(英)	解剖学Ⅲ (Anatomy Ⅲ)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	熊本 賢三
学科	柔道整復科	授業形態	講義	総時間	90	開講区分	1学期
コース	Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(3)	曜日・時限	金曜日 2・3限

【授業の学習内容】

柔道整復学の基礎となる人体の生命現象と正常機能をおこなうにあたって必要とされる人体の正常な構造の理解は疾患の治療の上で必要不可欠である。 特に 神経系、内分泌系、呼吸、循環、消化、吸収、栄養と代謝、排尿、感覚器等の生命維持に不可欠な機能がいかなる構造によって可能となっているかの概念を習得し、本授業終了時には人体の正常な構造について説明ができるようになる。
※実務経験
担当教員は解剖学専攻で医学博士を取得し、大学に席を置いて専門学校や高等学校で解剖学、解剖生理学40年に渡り教育し、人体解剖実習の成果として「鍼灸師・柔道整復師のための局所解剖カラーアトラス」を北村清一郎先生と編集し、南江堂より出版した。

【到達目標】

人体解剖学の基本的体系を習得し人体の正常構造について習得する。進化や発生の過程で人体が形成されたことを説明できる。神経系、内分泌系、呼吸、循環、消化、吸収、栄養と代謝、排尿、感覚器等の各種機能をおこなうにあたっての人体の構造を体系的に説明できる。

授業計画・内容	
1回目	解剖学用語の復習について理解し、説明出来るようになる
2回目	細胞および組織の復習について理解し、説明出来るようになる
3回目	人体の発生、各組織、器官の発生の復習について理解し、説明出来るようになる
4回目	器官系統、人体の区分の復習について理解し、説明出来るようになる
5回目	骨格系総論の復習について理解し、説明出来るようになる
6回目	骨格系各論　脊柱、胸郭の復習について理解し、説明出来るようになる
7回目	骨格系各論　上肢骨、下肢骨、頭蓋の復習について理解し、説明出来るようになる
8回目	筋系総論の復習について理解し、説明出来るようになる
9回目	頭頸部の筋の復習について理解し、説明出来るようになる
10回目	胸部の筋と呼吸運動、腹部の筋と背部の筋の復習について理解し、説明出来るようになる
11回目	上肢の筋の復習について理解し、説明出来るようになる
12回目	下肢の筋の復習について理解し、説明出来るようになる
13回目	国家試験該当範囲の総合演習
14回目	1学期定期試験
15回目	1学期定期試験解説
準備学習時間外学習	(目標①) 前提:この授業を受けるには、解剖学的知識の羅列的暗記のみならず、当該学習項目についての深い考察が必要である。 (目標②) 当該学習項目と関連する生理学、運動学等の関連領域についての理解も深める。 (目標③) 当該学習項目に関する領域の国家試験問題について正答を得ることができる。
評価方法	1. 定期試験(100%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%) 評価方法はGPA制度となります 100~90点　S 89~80点　A 79~70点　B 69~60点　C 59点以下　F不合格
受講生へのメッセージ	正常な人体の構造を学ぶ解剖学は柔道整復師として必須項目である。臨床の場面で不可欠の知識となるため、十分な理解が望まれる。当該範囲は複雑多岐にわたるが、着実に学習していって欲しい。毎回の講義が膨大のものとなるため予習、復習は必須条件である。また、体調管理には十分留意し、くれぐれも欠席をしない様にして下さい。 いよいよ、最終学年となり国家試験に合格できるよう万全の体制で臨みましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:全国柔道整復学校協会監修、岸　清・石塚　寛編「解剖学」医歯薬出版、2017

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名 (英)	解剖学Ⅲ (Anatomy Ⅲ)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	熊本 賢三
学科	柔道整復科	授業形態	講義	総時間	90	開講区分	2学期
コース	Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(3)	曜日・時限	金曜日 2・3限

【授業の学習内容】

柔道整復学の基礎となる人体の生命現象と正常機能をおこなうにあたって必要とされる人体の正常な構造の理解は疾患の治療の上で必要不可欠である。 特に 神経系、内分泌系、呼吸、循環、消化、吸収、栄養と代謝、排尿、感覚器等の生命維持に不可欠な機能がいかなる構造によって可能となっているかの概念を習得し、本授業終了時には人体の正常な構造について説明ができるようになる。
※実務経験
担当教員は解剖学専攻で医学博士を取得し、大学に席を置いて専門学校や高等学校で解剖学、解剖生理学40年に渡り教育し、人体解剖実習の成果として「鍼灸師・柔道整復師のための局所解剖カラーアトラス」を北村清一郎先生と編集し、南江堂より出版した。

【到達目標】

人体解剖学の基本的体系を習得し人体の正常構造について習得する。進化や発生の過程で人体が形成されたことを説明できる。神経系、内分泌系、呼吸、循環、消化、吸収、栄養と代謝、排尿、感覚器等の各種機能をおこなうにあたっての人体の構造を体系的に説明できる。

授業計画・内容	
1回目	脈管系総論の復習について理解し、説明出来るようになる
2回目	心臓の構造と小循環、大循環の復習について理解し、説明出来るようになる
3回目	動脈系総合演習①について理解し、説明出来るようになる
4回目	動脈系総合演習②について理解し、説明出来るようになる
5回目	静脈系総合演習①について理解し、説明出来るようになる
6回目	静脈系総合演習②について理解し、説明出来るようになる
7回目	胎児循環、リンパ管系の復習について理解し、説明出来るようになる
8回目	消化器系総合演習① 総論、口腔、咽頭、食道について理解し、説明出来るようになる
9回目	消化器系総合演習② 胃、小腸、大腸について理解し、説明出来るようになる
10回目	消化器系総合演習③ 肝臓、胆道、膵臓、腹膜について理解し、説明出来るようになる
11回目	呼吸器系総合演習① 外鼻、鼻腔、副鼻腔、咽頭、喉頭について理解し、説明出来るようになる
12回目	呼吸器系総合演習② 肺と国家試験過去問題総演習について理解し、説明出来るようになる
13回目	泌尿器系総合演習について理解し、説明出来るようになる
14回目	2学期定期試験
15回目	2学期定期試験解説
準備学習 時間外学習	(目標①) 前提:この授業を受けるには、解剖学的知識の羅列的暗記のみならず、当該学習項目についての深い考察が必要である。 (目標②) 当該学習項目と関連する生理学、運動学等の関連領域についての理解も深める。 (目標③) 当該学習項目に関する領域の国家試験問題について正答を得ることができる。
評価方法	1. 定期試験(100%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%) 評価方法はGPA制度となります 100~90点 S 89~80点 A 79~70点 B 69~60点 C 59点以下 F不合格
受講生へのメッセージ	正常な人体の構造を学ぶ解剖学は柔道整復師として必須項目である。臨床の場面で不可欠の知識となるため、十分な理解が望まれる。当該範囲は複雑多岐にわたるが、着実に学習していって欲しい。毎回の講義が膨大のものとな るため予習、復習は必須条件である。また、体調管理には十分留意し、くれぐれも欠席をしない様にして下さい。 いよいよ、最終学年となり国家試験に合格できるよう万全の体制で臨みましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:全国柔道整復学校協会監修、岸 清・石塚 寛編「解剖学」医歯薬出版、2017

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名 (英)	解剖学Ⅲ (Anatomy Ⅲ)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	熊本 賢三
学科	柔道整復科	授業形態	講義	総時間	90	開講区分	3学期
コース	Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(3)	曜日・時限	金曜日 2・3限

【授業の学習内容】

柔道整復学の基礎となる人体の生命現象と正常機能をおこなうにあたって必要とされる人体の正常な構造の理解は疾患の治療の上で必要不可欠である。 特に 神経系、内分泌系、呼吸、循環、消化、吸収、栄養と代謝、排尿、感覚器等の生命維持に不可欠な機能がいかなる構造によって可能となっているかの概念を習得し、本授業終了時には人体の正常な構造について説明ができるようになる。
※実務経験
担当教員は解剖学専攻で医学博士を取得し、大学に席を置いて専門学校や高等学校で解剖学、解剖生理学40年に渡り教育し、人体解剖実習の成果として「鍼灸師・柔道整復師のための局所解剖カラーアトラス」を北村清一郎先生と編集し、南江堂より出版した。

【到達目標】

人体解剖学の基本的体系を習得し、人体の正常構造について習得する。進化や発生の過程で人体が形成されたことを説明できる。神経系、内分泌系、呼吸、循環、消化、吸収、栄養と代謝、排尿、感覚器等の各種機能をおこなうにあたっての人体の構造を体系的に説明できる。

授業計画・内容	
1回目	男性生殖器総合演習について理解し、説明出来るようになる
2回目	女性生殖器総合演習について理解し、説明出来るようになる
3回目	内分泌系総合演習①について理解し、説明出来るようになる
4回目	内分泌系総合演習②について理解し、説明出来るようになる
5回目	神経系総合演習① 総論について理解し、説明出来るようになる
6回目	神経系総合演習② 脳、脊髄、伝導路について理解し、説明出来るようになる
7回目	神経系総合演習③ 脳神経について理解し、説明出来るようになる
8回目	神経系総合演習④ 脊髄神経 頚神経叢、腕神経叢について理解し、説明出来るようになる
9回目	神経系総合演習⑤ 脊髄神経 腰神経叢、仙骨神経叢、陰部神経叢について理解し、説明出来るようになる
10回目	神経系総合演習⑥ 自律神経系 国家試験過去問題総合演習について理解し、説明出来るようになる
11回目	感覚器総合演習① 皮膚、視覚器について理解し、説明出来るようになる
12回目	感覚器総合演習② 聴覚器、平衡器、味覚器 国家試験過去問題総合演習について理解し、説明出来るようになる
13回目	体表解剖学総合演習について理解し、説明出来るようになる
14回目	3学期定期試験
15回目	3学期定期試験解説
準備学習 時間外学習	(目標①) 前提:この授業を受けるには、解剖学的知識の羅列的暗記のみならず、当該学習項目についての深い考察が必要である。 (目標②) 当該学習項目と関連する生理学、運動学等の関連領域についての理解も深める。 (目標③) 当該学習項目に関する領域の国家試験問題について正答を得ることができる。
評価方法	1. 定期試験(100%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%) 評価方法はGPA制度となります 100~90点 S 89~80点 A 79~70点 B 69~60点 C 59点以下 F不合格
受講生への メッセージ	正常な人体の構造を学ぶ解剖学は柔道整復師として必須項目である。臨床の場面で不可欠の知識となるため、十分な理解が望まれる。当該範囲は複雑多岐にわたるが、着実に学習していって欲しい。毎回の講義が膨大のものとな るため予習、復習は必須条件である。また、体調管理には十分留意し、くれぐれも欠席をしない様にして下さい。 いよいよ、最終学年となり国家試験に合格できるよう万全の体制で臨みましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:全国柔道整復学校協会監修、岸 清・石塚 寛編「解剖学」医歯薬出版、2017

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名 (英)	生理学Ⅱ (Physiology Ⅱ)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	糟谷 圭吾
学科	柔道整復科	授業形態	講義	総時間	90	開講区分	1学期
コース	Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(6)	曜日・時限	月・水曜日 1・4限

【授業の学習内容】

人体の生命現象と正常機能およびその体系の理解特に 等の生命維持に不可欠な機能についての概念を習得し、本授業終了時には各々の生理学的機能について説明ができるようになる。
※実務者経験
1994～1996年 歯科医療研修振興財団 臨床研修課程を修める。1996年～歯科医師として臨床業務に従事。1998～2000年 歯学部付属病院に所属する。主業務として中央手術室における全身麻酔管理および外来病棟（有病者歯科）における全身管理業務に従事。

【到達目標】

人体生理学の基本的体系を知り、人体の正常機能についての原則を習得する。進化や発生の過程で人体が形成されたことを説明できる。神経系、内分泌系による調節機構（ホメオスタシス）、呼吸，循環，消化、吸収、栄養と代謝、排尿、感覚器等について網羅的に説明できる。

授業計画・内容	
1回目	消化と消化酵素の総括について説明できる
2回目	消化管の吸収機能について説明できる
3回目	栄養と代謝の総括について説明できる
4回目	泌尿器系の機能の総括について説明できる
5回目	泌尿器系について説明できる
6回目	内分泌の機能 内分泌器官と構造 について説明できる
7回目	ホルモンの一般的性質①について説明できる
8回目	各種ホルモンの性質①について説明できる
9回目	各種ホルモンの性質②について説明できる
10回目	各種ホルモンの性質③について説明できる
11回目	生殖系概論 について説明できる
12回目	男性生殖器系について説明できる
13回目	女性生殖器系について説明できる
14回目	骨の生理学について説明できる 1学期定期試験
15回目	感覚器総論導入部について説明できる 1学期定期試験解説
準備学習 時間外学習	(目標①) 前提：この授業を受けるには、1生理学的知識の羅列的暗記のみならず、当該学習項目についての深い考察が必要である。 (目標②) 当該学習項目と関連する解剖学、運動学等の連領域についての理解も深める。 (目標③) 当該学習項目に関する領域の国家試験問題について正答を得ることができる。

評価方法			
	1. 定期試験（100%） 2. 小テスト（%） 3. レポート（%） 4. 課題成果（%） 5. 実地試験（%）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	講義 視聴覚機器利用

受講生へのメッセージ	
	これまでの学習により種々の生命現象が個体全体として、ひとつのシステムに見事に統合されていることが十分に理解できることでしょう。最終学年では、その理解をもとに、病態との関係などについても考察していきます。 また、国家試験において確実に合格点を得られるよう学習を深めたいと思います。 毎回の講義が膨大のものとなるため予習、復習は必須条件である。また、体調管理には十分留意し、くれぐれも欠席をしない様にして下さい

【使用教科書・教材・参考書】

「生理学」第3版 全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名 (英)	生理学Ⅱ (Physiology Ⅱ)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	糟谷 圭吾
学科	柔道整復科	授業形態	講義	総時間	90	開講区分	2学期
コース	Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(6)	曜日・時限	月・水曜日 1・4限

【授業の学習内容】

人体の生命現象と正常機能およびその体系の理解特に 等の生命維持に不可欠な機能についての概念を習得し、本授業終了時には各々の生理学的機能について説明ができるようになる。
※実務者経験
1994～1996年 歯科医療研修振興財団 臨床研修課程を修める。1996年～歯科医師として臨床業務に従事。1998～2000年 歯学部付属病院に所属する。主業務として中央手術室における全身麻酔管理および外来病棟（有病者歯科）における全身管理業務に従事。

【到達目標】

人体生理学の基本的体系を知り、人体の正常機能についての原則を習得する。進化や発生の過程で人体が形成されたことを説明できる。神経系、内分泌系による調節機構（ホメオスタシス）、呼吸，循環，消化、吸収、栄養と代謝、排尿、感覚器等について網羅的に説明できる。

授業計画・内容	
1回目	感覚器総論について説明できる
2回目	感覚器各論 視覚器について説明できる
3回目	感覚器各論 聴覚器について説明できる
4回目	感覚器各論 平衡器について説明できる
5回目	感覚器各論 味覚器、嗅覚器について説明できる
6回目	体液と血液の生理学 について説明できる
7回目	神経の生理学について説明できる
8回目	筋の生理学について説明できる
9回目	循環器系について説明できる
10回目	呼吸器系について説明できる
11回目	消化器と吸収について説明できる
12回目	栄養と代謝について説明できる
13回目	体温調節について説明できる
14回目	泌尿器系について説明できる 2学期定期試験
15回目	内分泌系について説明できる 2学期定期試験解説
準備学習 時間外学習	(目標①) 前提：この授業を受けるには、生理学的知識の羅列的暗記のみならず、当該学習項目についての深い考察が必要である。 (目標②) 当該学習項目と関連する解剖学、運動学等の関連領域についての理解も深める。 (目標③) 当該学習項目に関する領域の国家試験問題について正答を得ることができる。
評価方法	1. 定期試験（100%） 2. 小テスト（%） 3. レポート（%） 4. 課題成果（%） 5. 実地試験（%） 評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	講義 視聴覚機器利用
受講生へのメッセージ	これまでの学習により種々の生命現象が個体全体として、ひとつのシステムに見事に統合されていることが十分に理解できることでしょう。最終学年では、その理解をもとに、病態との関係などについても考察していきます。 また、国家試験において確実に合格点を得られるよう学習を深めたいと思います。 毎回の講義が膨大のものとなるため予習、復習は必須条件である。また、体調管理には十分留意し、くれぐれも欠席をしない様にして下さい

【使用教科書・教材・参考書】

「生理学」第3版 全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名 (英)	生理学Ⅱ (Physiology Ⅱ)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	糟谷 圭吾
学科	柔道整復科	授業形態	講義	総時間	90	開講区分	3学期
コース	Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(6)	曜日・時限	月・水曜日 1・4限

【授業の学習内容】

人体の生命現象と正常機能およびその体系の理解特に 等の生命維持に不可欠な機能についての概念を習得し、本授業終了時には各々の生理学的機能について説明ができるようになる。
※実務者経験
1994～1996年 歯科医療研修振興財団 臨床研修課程を修める。1996年～歯科医師として臨床業務に従事。1998～2000年 歯学部付属病院に所属する。主業務として中央手術室における全身麻酔管理および外来病棟（有病者歯科）における全身管理業務に従事。

【到達目標】

人体生理学の基本的体系を知り、人体の正常機能についての原則を習得する。進化や発生の過程で人体が形成されたことを説明できる。神経系、内分泌系による調節機構（ホメオスタシス）、呼吸，循環，消化、吸収、栄養と代謝、排尿、感覚器等について網羅的に説明できる。

授業計画・内容	
1回目	内分泌系 問題演習②を解くことができる
2回目	生殖系 問題演習を解くことができる
3回目	骨の生理学 問題演習を解くことができる
4回目	感覚器系 問題演習①を解くことができる
5回目	感覚器系 問題演習②を解くことができる
6回目	国家試験総合演習①を解くことができる
7回目	国家試験総合演習②を解くことができる
8回目	国家試験総合演習③を解くことができる
9回目	国家試験総合演習④を解くことができる
10回目	国家試験総合演習⑤を解くことができる
11回目	国家試験類題演習(鍼灸師国試) を解くことができる
12回目	国家試験類題演習（あん摩マッサージ師国試) を解くことができる
13回目	予想問題演習①を解くことができる
14回目	予想問題演習②を解くことができる
15回目	予想問題演習③を解くことができる
準備学習 時間外学習	(目標①) 前提：この授業を受けるには、生理学的知識の羅列的暗記のみならず、当該学習項目についての深い考察が必要である。 (目標②) 当該学習項目と関連する解剖学、運動学等の関連領域についての理解も深める。 (目標③) 当該学習項目に関する領域の国家試験問題について正答を得ることができる。

評価方法			
	1. 定期試験（100%） 2. 小テスト（%） 3. レポート（%） 4. 課題成果（%） 5. 実地試験（%）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	講義 視聴覚機器利用

受講生へのメッセージ	これまでの学習により種々の生命現象が個体全体として、ひとつのシステムに見事に統合されていることが十分に理解できることでしょう。最終学年では、その理解をもとに、病態との関係などについても考察していきます。 また、国家試験において確実に合格点を得られるよう学習を深めたいと思います。 毎回の講義が膨大のものとなるため予習、復習は必須条件である。また、体調管理には十分留意し、くれぐれも欠席をしない様にして下さい

【使用教科書・教材・参考書】

「生理学」第3版 全国柔道整復学校協会監修 医歯薬出版

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名(英)	病理学Ⅱ (Pathology)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	蒲 貞行
学科	柔整	授業形態	講義	総時間	45	開講区分	3学期
コース	Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(3)	曜日・時限	火曜日 2・3限

【授業の学習内容】

病理学は医学の基礎を成す学問であり、その内容は深く広範である。担当教員の上記経験を踏まえ、医療人として修得が望まれる病理学的知識を教授する。 授業内容は、国家試験に十分対応できる理解力の養成を主眼として教授する。

※実務経験

担当教員は、臨床検査技師としての国家資格(1970年)、日本臨床細胞学会認定の細胞検査士資格(通番171号)、国際細胞学会認定資格(通番444号)、博士(保健学)の称号を持つ。1970年に愛知県対ガン協会に入職後、愛知県がんセンター病院および愛知県総合保健センター臨床検査部で病理学、細胞診、血液学、生化学、生理学などの検査に従事した後、群馬大学大学院保健学研究科(2004～ 2015年:准教授)で病理学、細胞診断学の講義と実習に従事し、細胞検査士の養成に尽力した。その間に前橋東洋医学専門学校で病理学概論の講義も兼務した(2006～2014年)。その後群馬パース大学と中部大学の客員教授としての教鞭をとった。日本臨床細胞学会技師賞の受賞歴がある。

【到達目標】

医療人を志す者にとって、病理学は基本的な学問である。病理学概論では、広く疾病の分類と定義、原因と成り立ち、発生頻度、症状、死など様々な疾病の理解を深める。国家試験過去問集を併用し病理学分野の理解をさらに深め、国家試験への対応能力の向上を目指す。

授業計画・内容

1回目	腫瘍(1)[腫瘍の原因、腫瘍随伴症候群などを修得する]
2回目	腫瘍(2)[腫瘍マーカー、癌の疫学などを修得する]。　先天性異常(1)[遺伝病、染色体異常、などを修得する]
3回目	先天性異常(2)[奇形の環境要因、主な先天奇形、などを修得する] 。病因(1)[内因と外因、栄養障害を修得する]
4回目	病因(2)[物理的外因、化学的外因を修得する]
5回目	病因(3)[生物学的外因、日和見感染、菌交代現象などを修得する]　※過去問集Part 1の併用
6回目	中間試験 (腫瘍～先天性異常～病因)
7回目	中間試験解説。// 病理学総論～疾病の一般　※過去問集Part 2を併用し知識の修得を深める [問題1～8]
8回目	細胞障害(退行変性)　※過去問集の併用 [問題9～21]
9回目	循環障害　※過去問集の併用 [問題22～37]
10回目	循環障害　※過去問集の併用 [問題38～54]
11回目	循環障害　※過去問集の併用 [問題55～71]
12回目	進行性病変　※過去問集の併用 [問題72～87]
13回目	炎症　※過去問集の併用 [問題88～98]
14回目	免疫異常とアレルギー(1)　※過去問集の併用 [問題99～113]
15回目	免疫異常とアレルギー(2)　※過去問集の併用 [問題114～131]
16回目	腫瘍(1)　※過去問集の併用 [問題132～146]
17回目	腫瘍(2)　※過去問集の併用 [問題147～162]
18回目	先天性異常　※過去問集の併用 [問題163～176]
19回目	病因(1)　※過去問集の併用 [問題177～191]
20回目	病因(2)　※過去問集の併用 [問題192～207]
21回目	病因(3)　※過去問集の併用 [問題208～223]
22回目	期末試験
23回目	解説
準備学習 時間外学習	担当教員による配布テキストは、国家試験に対応できる知識の理解に配慮して準備された内容となっている。事前にその資料の一読が望ましい。また、授業後には、授業で担当教員が強調した点を中心に要点を整理し、国家試験問題の解答を試みるのも理解の習得に効果的である。
評価方法	1. 定期試験(100%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%) 評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格	期末試験の成績をもとに評価する。 当該期間に学んだ内容を国家試験レベルの問題として出題する。中間試験の得点率と期末時の試験の得点率の平均点で評価する。試験はマークシート形式で行う。
受講生へのメッセージ	人生、とくに医療人としての人生は生涯学びである。私は、受講生の皆さんが「人生、日々一切が生命現象の探究であり、そのことを通して人間性を磨くことである」との思いを持って教授する。ぜひ授業だけでなく、日常生活でのすべてに於いて、「いのちと人間の理解」につながる「学ぶ心」を身につけて頂きたい。

【使用教科書・教材・参考書】

病理学概論 (第2版) 医歯薬出版株式会社、担当教員による配布テキストおよび国家試験過去問集(Part 1&2)

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名(英)	リハビリテーション医学 (Rehabilitation Medicine)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	伊東 佑太 松田 輝
学科	柔道整復科	授業形態	講義	総時間	45	開講区分	2学期
コース	Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(3)	曜日・時限	月曜日 2・3限 火曜日 1・4限

【授業の学習内容】

柔道整復師の日常業務に必要な知識および国家試験対策を中心とした授業を展開する。過去の国家試験出題実績から予想される国家試験問題に回答できる知識を習得する。
実務経験(伊東):理学療法士として主に運動器疾患を対象とした臨床に非常勤も含めて20年以上従事。大学で理学療法学の教育・研究に20年以上従事。
実務経験(松田):2000年に免許を取得し、実務者経験は3年で、総合病院(急性期～回復期)に勤務する。主業務は、脳血管障害や整形疾患の術後リハビリテーションを行っていた。また、非常勤で、約8年間、総合病院、整形外科に勤務する。大学で理学療法学の教育・研究に12年以上従事。

【到達目標】

柔道整復師の日常業務に必要な知識を修得する。
他の医療関連職種との連携に必要な知識を修得する。

授業計画・内容	
1回目	第1章「リハビリテーションの理念」について説明できる。
2回目	第2章「リハビリテーションの対象と障害者の実態」について説明できる。
3回目	第3章「障害の階層とアプローチ」について説明できる。
4回目	第4章「リハビリテーション評価学」A 機能解剖～D ADLの評価について説明できる。
5回目	第4章「リハビリテーション評価学」E 心理的評価～I 運動失調について説明できる。
6回目	第5章「リハビリテーション障害学と治療学」Aリハビリテーション障害学(末梢神経系)について説明できる。
7回目	第5章「リハビリテーション障害学と治療学」Aリハビリテーション障害学(中枢神経系)について説明できる。
8回目	第5章「リハビリテーション障害学と治療学」Bリハビリテーション治療学について説明できる。
9回目	第6章「リハビリテーション医学と関連職種」について説明できる。
10回目	第7章「リハビリテーション治療技術」A理学療法～B作業療法について説明できる。
11回目	第7章「リハビリテーション治療技術」C言語聴覚療法～D補装具について説明できる。
12回目	第1章～第7章までの総復習　中間試験
13回目	第1章～第7章までの解説　中間試験の解説
14回目	第8章「高齢者のリハビリテーション」A健康寿命～Iパーキンソン病について説明できる。
15回目	第8章「高齢者のリハビリテーション」J脳卒中について説明できる。
16回目	第9章「運動器のリハビリテーション」A骨折～C捻挫について説明できる。
17回目	第9章「運動器のリハビリテーション」D上肢損傷後症候群～F頸肩腕症候群について説明できる。
18回目	第9章「運動器のリハビリテーション」G腰痛症～Iアキレス腱断裂について説明できる。
19回目	第10章「リハビリテーションと福祉」について説明できる。
20回目	第11章「障害者スポーツ」について説明できる。
21回目	「脊髄損傷、脳性麻痺」について説明できる。
22回目	第8章～第11章までの総復習　期末試験
23回目	第8章～第11章までの解説　期末試験の解説
準備学習 時間外学習	毎回の予習として教科書の該当ページを通読しておくこと。授業後は、配布したプリントや教科書の復習をすること。

評価方法			
評価方法	1. 定期試験(%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格	定期試験(100%)

受講生へのメッセージ	リハビリテーションは、他の科目の教科書に関連する記述が多数掲載されているため、取っつきにくさを感じる学生が多数いる科目です。しかし、各科目間に共通するキーワードに注目し、横断的に知識を理解できるようになれば、決して難しい科目ではありません。 今まで学習してきた知識をフル活用して、各科目の関連性について見つけ出していきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書:柔道整復学校協会監修『リハビリテーション医学(改訂第4版)』南江堂教　材:授業中にプリントを配布するのでファイルすること
参考書:他の科目の教科書一式(授業中に具体的な教科書、ページを明示する)

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名(英)	衛生学・公衆衛生学Ⅱ	必修選択	必修	年次	3	担当教員	杉山 文枝
学科	柔道整復科	授業形態	講義	総時間	45	開講区分	Ⅰ学期
コース	昼間Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(3)	曜日・時限	水曜日 2・3限

【授業の学習内容】

衛生学・公衆衛生学では、働く人の健康や衛生行政、保健医療の制度などを学びます。
※実務経験
1980～2004年杉山歯科医院で歯科診療 2005年～京都医健スポーツ専門学校
2013年～名古屋医健スポーツ専門学校

【到達目標】

柔道整復師としてだけではなく、医療従事者として必要な知識を身に付けることができる。

授業計画・内容

1回目	衛生学・公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動 について理解し、説明出来るようになる	16回目	生行政の考え方について理解し、説明出来るようになる。
2回目	保健教育 について理解し、説明出来るようになる。	17回目	療保険制度の概要について理解し、説明出来るようになる。
3回目	産業保健の目的について理解し、説明出来るようになる。	18回目	療の安全の確保について理解し、説明出来るようになる。
4回目	職業病とその対策について理解し、説明出来るようになる。	19回目	医療事故の防止について理解し、説明出来るようになる。
5回目	場における健康保持事業について理解し、説明出来るようになる。	20回目	集団の健康状態の把握について理解し、説明出来るようになる。
6回目	生活習慣病について理解し、説明出来るようになる。	21回目	分析疫学について理解し、説明出来るようになる。
7回目	高齢者福祉について理解し、説明出来るようになる。	22回目	総まとめを行い、3学期講義内容を説明出来るようになる
8回目	精神の病気：統合失調症について理解し、説明出来るようになる。	23回目	総復習を行い、3学期講義内容を修得する。
9回目	発達障害について理解し、説明出来るようになる。		
10回目	その他の精神障害について理解し、説明出来るようになる。		
11回目	国際協力と世界保健機関について理解し、説明出来るようになる。		
12回目	地域保健とはについて理解し、説明出来るようになる。		
13回目	総まとめを行い、2学期講義内容を説明出来るようになる。		
14回目	総まとめを行い、2学期講義内容を説明出来るようになる。		
15回目	総復習を行い、2学期講義内容を修得する。		

準備学習 時間外学習	プリントを使い説明します。板書もするので復習してください。		
評価方法	1. 定期試験(100%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	定期試験100%
受講生へのメッセージ	自分で教科書を読んで理解するのは大変なことなので、しっかり授業に参加してください分からないことはそのままにせず質問してください		

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：南江堂「衛生学・公衆衛生学」改定第6版

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名 (英)	柔道整復学Ⅴ (Judo Therapy Ⅴ)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	山口 智一
学科	柔道整復科	授業形態	講義	総時間	60	開講区分	1学期
コース	Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(2)	曜日・時限	土曜日 2・3限

【授業の学習内容】

国家試験の出題基準が変更され、柔道整復学に大きな比重がおかれるようになってきた。本講義では柔道整復師として必要な外傷の知識を学ぶとともに、国家試験によく出題される外傷についてを学んでいく。
※実務経験
7年以上専門学校の教育現場に従事し、また接骨院の施術にも従事していた。

【到達目標】

柔道整復学の内容を理解し、説明できるようにしていく。
【具体的な目標】
①臨床現場において必要な柔道整復の外傷を説明できる。
②国家試験の問題が解答できるよう習得させる。

授業計画・内容	
1回目	骨折やその症状・合併症について説明ができる
2回目	骨折やその症状・合併症について説明ができる
3回目	骨折やその症状・合併症について説明ができる
4回目	脱臼やその症状・合併症について説明ができる
5回目	軟部組織損傷やその症状について説明ができる
6回目	軟部組織損傷やその症状について説明ができる
7回目	整復法・固定法について説明ができる
8回目	後療法について説明ができる
9回目	骨盤骨骨折について説明ができる
10回目	大腿骨近位端部骨折について説明ができる
11回目	大腿骨近位端部骨折について説明ができる
12回目	大腿骨骨幹部骨折について説明ができる
13回目	大腿骨骨幹部骨折について説明ができる
14回目	総復習
15回目	総復習
準備学習 時間外学習	【予習】 事前に教科書を熟読し、わからない単語を調べておく。 【復習】 配布した復習問題や配布資料の内容をまとめ理解を深める。

評価方法			
	1. 定期試験(100%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)	評価方法はGPA制度となります 100~90点　S 89~80点　A 79~70点　B 69~60点　C 59点以下　F不合格	

受講生へのメッセージ	国家試験の出題基準が変更となり、学習内容が増えましたが、ポイントをしっかり抑えて国家試験合格できるようにしていきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：柔道整復学理論編第6版（南江堂）、柔道整復学実技編第2版（南江堂）、配布資料

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名 (英)	柔道整復学Ⅴ (Judo Therapy Ⅴ)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	山口 智一
学科	柔道整復科	授業形態	講義	総時間	60	開講区分	2学期
コース	Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(2)	曜日・時限	土曜日 2・3限

【授業の学習内容】

国家試験の出題基準が変更され、柔道整復学に大きな比重がおかれるようになってきた。本講義では柔道整復師として必要な外傷の知識を学ぶとともに、国家試験によく出題される外傷についてを学んでいく。
※実務経験
7年以上専門学校の教育現場に従事し、また接骨院の施術にも従事していた。

【到達目標】

柔道整復学の内容を理解し、説明できるようにしていく。
【具体的な目標】
①臨床現場において必要な柔道整復の外傷を説明できる。
②国家試験の問題が解答できるよう習得させる。

授業計画・内容	
1回目	大腿骨遠位端部骨折について説明ができる
2回目	下腿骨近位端部骨折について説明ができる
3回目	下腿骨骨幹部骨折について説明ができる
4回目	下腿骨骨幹部骨折について説明ができる
5回目	下腿骨遠位端部骨折について説明ができる
6回目	足根骨骨折について説明ができる
7回目	足根骨骨折について説明ができる
8回目	足趾骨折について説明ができる
9回目	股関節脱臼について説明ができる
10回目	膝関節・膝蓋骨脱臼について説明ができる
11回目	足根骨・足趾脱臼について説明ができる
12回目	頭部・顔面部の骨折について説明ができる
13回目	頭部・顔面部の骨折について説明ができる
14回目	総復習
15回目	総復習
準備学習 時間外学習	【予習】 事前に教科書を熟読し、わからない単語を調べておく。 【復習】 配布した復習問題や配布資料の内容をまとめ理解を深める。
評価方法	1. 定期試験(100%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%) 評価方法はGPA制度となります 100~90点　S 89~80点　A 79~70点　B 69~60点　C 59点以下　F不合格
受講生へのメッセージ	国家試験の出題基準が変更となり、学習内容が増えましたが、ポイントをしっかり抑えて国家試験合格できるようにしていきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：柔道整復学理論編第6版（南江堂）、柔道整復学実技編第2版（南江堂）、配布資料

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名(英)	臨床柔道整復学Ⅲ (Clinical Judo TherapyⅢ)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	山口 智一
学科	柔道整復科	授業形態	講義	総時間	90	開講区分	1学期
コース	Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(6)	曜日・時限	月・土曜日 1・4限

【授業の学習内容】

国家試験の出題基準である患者の権利、医療過誤とリスクマネジメント、柔道、関係法規（柔道整復師法、医療法、医師法等）、国民医療費、各骨折・脱臼・軟部組織損傷を学んでいく。
※実務経験
7年以上専門学校の教育現場に従事し、また接骨院の施術にも従事していた。

【到達目標】

国家試験の必修問題の内容を中心に習得させていく。
【具体的な目標】
①国家試験の必修問題の出題基準である各内容を説明できる
②国家試験の必修問題が解答できるよう習得させる。

授業計画・内容	
1回目	ガイダンス、患者の権利について説明ができる
2回目	患者の権利、医療過誤とリスクマネジメントについて説明ができる
3回目	柔道（歴史、理念、審判規定、礼法、受け身）について説明ができる
4回目	患者の権利～柔道までを理解する
5回目	柔道整復師法について説明ができる
6回目	柔道整復師法について説明ができる
7回目	医療法、医師法について説明ができる
8回目	その他医療従事者の関係法規について説明ができる
9回目	国民医療費について説明ができる
10回目	柔道整復師法～国民医療費までを理解する
11回目	定型的鎖骨骨折（診察・整復）について説明ができる
12回目	定型的鎖骨骨折（固定）について説明ができる
13回目	上腕骨外科頚外転型骨折（診察・整復・固定法）について説明ができる
14回目	総復習、期末試験
15回目	試験解説
準備学習 時間外学習	【予習】シラバスを見て事前に予習できる内容であればその範囲の教科書を熟読し、わからない内容は調べておく。 【復習】講義で学んだ内容をノートにまとめ復習しておく。
評価方法	1. 定期試験（100%） 2. 小テスト（%） 3. レポート（%） 4. 課題成果（%） 5. 実地試験（%） 評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格
受講生へのメッセージ	国家試験の出題基準が変更となり、学習内容が増えましたが、ポイントをしっかり抑えて国家試験合格できるようにしていきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：柔道整復学理論編第6版（南江堂）、柔道整復学実技編第2版（南江堂）、関係法規2020年度版（医歯薬出版株式会社）、配布資料

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名 (英)	臨床柔道整復学Ⅲ (Clinical Judo TherapyⅢ)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	山口 智一
学科	柔道整復科	授業形態	講義	総時間	90	開講区分	2学期
コース	Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(6)	曜日・時限	月・土曜日 1・4限

【授業の学習内容】

国家試験の出題基準である患者の権利、医療過誤とリスクマネジメント、柔道、関係法規（柔道整復師法、医療法、医師法等）、国民医療費、各骨折・脱臼・軟部組織損傷を学んでいく。
※実務経験
7年以上専門学校の教育現場に従事し、また接骨院の施術にも従事していた。

【到達目標】

国家試験の必修問題の内容を中心に習得させていく。
【具体的な目標】
①国家試験の必修問題の出題基準である各内容を説明できる
②国家試験の必修問題が解答できるよう習得させる。

授業計画・内容	
1回目	上腕骨骨幹部骨折三角筋付着部より遠位骨折（固定）について説明ができる
2回目	コーレス骨折（診察・整復）について説明ができる
3回目	コーレス骨折（固定）について説明ができる
4回目	第5中手骨頚部骨折（固定）について説明ができる
5回目	肋骨骨折（固定）について説明ができる
6回目	上腕骨骨幹部骨折～肋骨骨折まで理解できる
7回目	肩鎖関節上方脱臼（診察・整復）について説明ができる
8回目	肩鎖関節上方脱臼（固定）について説明ができる
9回目	肩関節烏口下脱臼（診察・整復）について説明ができる
10回目	肩関節烏口下脱臼（固定）について説明ができる
11回目	肘関節後方脱臼（診察・整復）について説明ができる
12回目	肘関節後方脱臼（固定）について説明ができる
13回目	肘内障（診察・整復）について説明ができる
14回目	総復習、期末試験
15回目	試験解説
準備学習 時間外学習	【予習】シラバスを見て事前に予習できる内容であればその範囲の教科書を熟読し、わからない内容は調べておく。 【復習】講義で学んだ内容をノートにまとめ復習しておく。
評価方法	1. 定期試験（100%） 2. 小テスト（%） 3. レポート（%） 4. 課題成果（%） 5. 実地試験（%） 評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格
受講生へのメッセージ	国家試験の出題基準が変更となり、学習内容が増えましたが、ポイントをしっかり抑えて国家試験合格できるようにしていきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：柔道整復学理論編第6版（南江堂）、柔道整復学実技編第2版（南江堂）、関係法規2020年度版（医歯薬出版株式会社）、配布資料

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名 (英)	臨床柔道整復学Ⅲ (Clinical Judo TherapyⅢ)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	山口 智一
学科	柔道整復科	授業形態	講義	総時間	90	開講区分	3学期
コース	Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(6)	曜日・時限	月・土曜日 1・4限

【授業の学習内容】

国家試験の出題基準である患者の権利、医療過誤とリスクマネジメント、柔道、関係法規（柔道整復師法、医療法、医師法等）、国民医療費、各骨折・脱臼・軟部組織損傷を学んでいく。
※実務経験
7年以上専門学校の教育現場に従事し、また接骨院の施術にも従事していた。

【到達目標】

国家試験の必修問題の内容を中心に習得させていく。
【具体的な目標】
①国家試験の必修問題の出題基準である各内容を説明できる
②国家試験の必修問題が解答できるよう習得させる。

授業計画・内容	
1回目	示指PIP関節背側脱臼（固定）、肩腱板損傷（診察）について説明ができる
2回目	上腕二頭筋長頭腱損傷（診察）について説明ができる
3回目	大腿部打撲・肉離れ（診察）について説明ができる
4回目	膝関節内側側副靭帯損傷（診察・固定）について説明ができる
5回目	膝関節十字靭帯損傷（診察）について説明ができる
6回目	膝関節半月板損傷（診察）について説明ができる
7回目	下腿三頭筋肉離れ（診察）について説明ができる
8回目	アキレス腱断裂（固定）について説明ができる
9回目	足関節外側靭帯損傷（診察・固定）について説明ができる
10回目	下腿骨骨幹部骨折（固定）について説明ができる
11回目	包帯法について説明ができる
12回目	包帯法について説明ができる
13回目	まとめを行い今までの内容を理解する
14回目	総復習、期末試験
15回目	試験解説
準備学習 時間外学習	【予習】シラバスを見て事前に予習できる内容であればその範囲の教科書を熟読し、わからない内容は調べておく。 【復習】講義で学んだ内容をノートにまとめ復習しておく。
評価方法	1. 定期試験（100%） 2. 小テスト（%） 3. レポート（%） 4. 課題成果（%） 5. 実地試験（%） 評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格
受講生へのメッセージ	国家試験の出題基準が変更となり、学習内容が増えましたが、ポイントをしっかり抑えて国家試験合格できるようにしていきましょう。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：柔道整復学理論編第6版（南江堂）、柔道整復学実技編第2版（南江堂）、関係法規2020年度版（医歯薬出版株式会社）配布資料

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名(英)	臨床柔道整復学Ⅳ	必修選択	必修	年次	3	担当教員	小泉 直子
学科	柔道整復科	授業形態	講義	総時間	90	開講区分	1学期
コース	Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(6)	曜日・時限	火曜日 1・4限

【授業の学習内容】

基礎医学から臨床医学を考えることにより、暗記で症状を覚えるなどを避け、疾患や症状の理解をすることが、柔道整復師として患者さんに接する際に必要な知識となります。例えば患者さんに愛護的な姿勢で施術するなど、臨床医学で学んだことを説明しながら実践できるようにします。

※実務経験

2002年4月～2006年3月まで接骨院、整形外科医院で勤務：主業務は疾患や外傷に対する後療法

2005年柔道整復師専科教員資格取得

【到達目標】

臨床では外傷で来院しても、実際には他に様々な疾患を持つ患者が来院する事が多い。特に多く出会う循環器、呼吸器、神経疾患に対して、一般臨床や外科で習得した知識を元に、患者と接した際に必要な対応ができるようにする。

授業計画・内容

1回目	呼吸の異常について説明できる
2回目	拘束性換気障害、閉塞性換気障害について説明できる
3回目	COPD、気管支喘息について説明できる
4回目	気管支喘息、悪性腫瘍、肺癌について説明できる
5回目	肺癌、気胸について説明できる
6回目	循環の異常について説明できる
7回目	先天性心疾患、心臓弁膜症について説明できる
8回目	心臓弁膜症疾患、動脈硬化症について説明できる
9回目	虚血性心疾患、心不全について説明できる
10回目	大動脈疾患、血圧異常について説明できる
11回目	神経の基礎について説明できる
12回目	脳血管障害について説明できる
13回目	脳血管障害、脳外傷について説明できる
14回目	復習、期末試験
15回目	試験解説
準備学習時間外学習	この授業を受けるには、解剖学、生理学、病理学などの基礎医学の知識を元にした一般臨床医学や外科学の理解が必要です。また、柔道整復学の理解がなければ、どのような外傷で特に注意が必要かも分からなくなります。これらの予習を行い授業に臨むようにして下さい。また、理解を深めるために、復習を欠かさないで下さい。
評価方法	1. 定期試験(%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)		定期試験100%
受講生へのメッセージ	柔道整復師が接する患者さんの中には、内蔵疾患や重度の神経疾患等の病気を持っている方もいらっしゃいます。また、業務範囲外の場合もあります。このような方々は自分の病気に詳しいことも多いですが、さらに様々な質問もしてきます。病気を知ることによって、どこまで柔道整復師として関われるかを見極める能力を養って下さい。		

【使用教科書・教材・参考書】

プリント、一般臨床医学教科書、外科学概論教科書、柔道整復学理論編教科書、カラー人体解剖学

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名(英)	臨床柔道整復学Ⅳ	必修選択	必修	年次	3	担当教員	小泉 直子
学科	柔道整復科	授業形態	講義	総時間	90	開講区分	2学期
コース	Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(6)	曜日・時限	火曜日 1・4限

【授業の学習内容】

基礎医学から臨床医学を考えることにより、暗記で症状を覚えるなどを避け、疾患や症状の理解をすることが、柔道整復師として患者さんに接する際に必要な知識となります。例えば患者さんに愛護的な姿勢で施術するなど、臨床医学で学んだことを説明しながら実践できるようにします。
※実務経験
2002年4月～2006年3月まで接骨院、整形外科医院で勤務：主業務は疾患や外傷に対する後療法
2005年柔道整復師専科教員資格取得

【到達目標】

臨床では外傷で来院しても、実際には他に様々な疾患を持つ患者が来院する事が多い。特に多く出会う循環器、呼吸器、神経疾患に対して、一般臨床や外科で習得した知識を元に、患者と接した際に必要な対応ができるようにする。

授業計画・内容	
1回目	脳腫瘍、てんかんについて説明できる
2回目	脳幹・小脳の障害について説明できる
3回目	髄膜のしくみ、髄膜炎について説明できる
4回目	麻酔について説明できる
5回目	認知症について説明できる
6回目	基底核疾患について説明できる
7回目	神経・筋疾患について説明できる
8回目	損傷、熱傷について説明できる
9回目	ショックについて説明できる
10回目	心肺蘇生法、救命救急について説明できる
11回目	手術法、感染症について説明できる
12回目	感染症、外科の消毒法について説明できる
13回目	上部消化管疾患について説明できる
14回目	復習、期末試験
15回目	試験解説
準備学習時間外学習	この授業を受けるには、解剖学、生理学、病理学などの基礎医学の知識を元にした一般臨床医学や外科学の理解が必要です。また、柔道整復学の理解がなければ、どのような外傷で特に注意が必要かも分からなくなります。これらの予習を行い授業に臨むようにして下さい。また、理解を深めるために、復習を欠かさないで下さい。
評価方法	1. 定期試験(%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)
	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格
	定期試験100%
受講生へのメッセージ	柔道整復師が接する患者さんの中には、内蔵疾患や重度の神経疾患等の病気を持っている方もいらっしゃいます。また、業務範囲外の場合もあります。このような方々は自分の病気に詳しいことも多いですが、さらに様々な質問もしてきます。病気を知ることによって、どこまで柔道整復師として関われるかを見極める能力を養って下さい。

【使用教科書・教材・参考書】

プリント、一般臨床医学教科書、外科学概論教科書、柔道整復学理論編教科書、カラー人体解剖学

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名(英)	臨床柔道整復学Ⅳ	必修選択	必修	年次	3	担当教員	小泉 直子
学科	柔道整復科	授業形態	講義	総時間	90	開講区分	3学期
コース	Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(6)	曜日・時限	火曜日 1・4限

【授業の学習内容】

基礎医学から臨床医学を考えることにより、暗記で症状を覚えるなどを避け、疾患や症状の理解をすることが、柔道整復師として携われるかどうかを判断する必要な知識となります。業務範囲外の場合、速やかに医療機関に送るなどの処置がとれるようにしていきます。
※実務経験
2002年4月～2006年3月まで接骨院、整形外科医院で勤務：主業務は疾患や外傷に対する後療法
2005年柔道整復師専科教員資格取得

【到達目標】

臨床では外傷で来院しても、実際には他に様々な疾患を持つ患者が来院する事が多い。このような患者に対して、一般臨床や外科で習得した知識を元に、患者と接した際に必要な対応ができるようにする。

授業計画・内容	
1回目	下部消化管疾患について説明できる
2回目	肝臓疾患について説明できる
3回目	胆嚢疾患、膵臓疾患について説明できる
4回目	糖代謝と疾患について説明できる
5回目	尿酸代謝と疾患について説明できる
6回目	脂質代謝、ビタミン代謝と疾患について説明できる
7回目	下垂体ホルモンと異常について説明できる
8回目	甲状腺ホルモンと異常について説明できる
9回目	副腎ホルモンと異常について説明できる
10回目	赤血球と血液疾患について説明できる
11回目	白血球・血小板と血液疾患について説明できる
12回目	腎疾患、尿路疾患について説明できる
13回目	主な自己免疫疾患について説明できる
14回目	復習、期末試験
15回目	試験解説
準備学習時間外学習	この授業を受けるには、解剖学、生理学、病理学などの基礎医学の知識を元にした一般臨床医学や外科学の理解が必要です。また、柔道整復学の理解がなければ、どのような外傷で特に注意が必要かも分からなくなります。これらの予習を行い授業に臨むようにして下さい。また、理解を深めるために、復習を欠かさないで下さい。

評価方法	1. 定期試験(%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	定期試験100%
受講生へのメッセージ	柔道整復師が接する患者さんの中には、内蔵疾患や重度の神経疾患等の病気を持っている方もいらっしゃいます。また、業務範囲外の場合もあります。このような方々は自分の病気に詳しいことも多いですが、さらに様々な質問もしてきます。病気を知ることによって、どこまで柔道整復師として関われるかを見極める能力を養って下さい。		

【使用教科書・教材・参考書】
プリント、一般臨床医学教科書、外科学概論教科書、柔道整復学理論編教科書、カラー人体解剖学

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名(英)	臨床柔道整復学Ⅴ (Clinical Judo Therapy Ⅴ)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	加藤 雄大
学科	柔道整復科	授業形態	講義	総時間	60	開講区分	3学期
コース	昼間Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(4)	曜日・時限	月・金曜日 1・4限

【授業の学習内容】

柔道整復理論について、総論、各論を再履修する。国家試験対策試験を行い、その基礎的知識を確認する。
※実務経験
柔道整復専科教員免許取得

【到達目標】

柔道整復理論の総論、各論について理解し説明することができる。基礎的知識を身につけており、応用分野、臨床問題についても対応できる。

授業計画・内容

1回目	柔道整復理論 総論 骨折について理解し、説明できる	16回目	柔道整復理論 各論 上肢 軟部組織 肩について理解し、説明できる
2回目	柔道整復理論 総論 脱臼について理解し、説明できる	17回目	柔道整復理論 各論 上肢 軟部組織 肘について理解し、説明できる
3回目	柔道整復理論 総論 軟部組織損傷について理解し、説明できる	18回目	柔道整復理論 各論 上肢 軟部組織 手について理解し、説明できる
4回目	柔道整復理論 総論 整復固定について理解し、説明できる	19回目	柔道整復理論 各論 上肢 軟部組織 指について理解し、説明できる
5回目	柔道整復理論 総論 合併症 後療法について理解し、説明できる	20回目	柔道整復理論 各論 下肢 骨折 骨盤 股関節について理解し、説明できる
6回目	柔道整復理論 各論 上肢 骨折 肩について理解し、説明できる	21回目	柔道整復理論 各論 下肢 骨折 膝について理解し、説明できる
7回目	柔道整復理論 各論 上肢 骨折 肘について理解し、説明できる	22回目	柔道整復理論 各論 下肢 骨折 足関節 について理解し、説明できる
8回目	柔道整復理論 各論 上肢 骨折 手について理解し、説明できる	23回目	柔道整復理論 各論 下肢 骨折 足部 足趾について理解し、説明できる
9回目	柔道整復理論 各論 上肢 骨折 指について理解し、説明できる	24回目	柔道整復理論 各論 下肢 脱臼について理解し、説明できる
10回目	柔道整復理論 各論 上肢 脱臼 肩について理解し、説明できる	25回目	柔道整復理論 各論 下肢 軟部組織 股関節について理解し、説明できる
11回目	柔道整復理論 各論 上肢 脱臼 肘について理解し、説明できる	26回目	柔道整復理論 各論 下肢 軟部組織 大腿部 膝について理解し、説明できる
12回目	柔道整復理論 各論 上肢 脱臼 手について理解し、説明できる	27回目	柔道整復理論 各論 下肢 軟部組織 足部 足趾について理解し、説明できる
13回目	柔道整復理論 各論 上肢 脱臼 指について理解し、説明できる	28回目	上肢の骨折、脱臼、軟部組織損傷について理解し、説明できる
14回目	柔道整復理論 各論 上肢 総復習について理解し、説明できる	29回目	下肢の骨折、脱臼、軟部組織損傷について理解し、説明できる
15回目	柔道整復理論 各論 上肢 復習試験	30回目	総復習 解説

準備学習時間外学習	各自で理解力の低い項目(成績の悪い項目)について見つめ直し、重点的に理解力の向上に努めること。		
評価方法	1.定期試験(%) 2.小テスト(%) 3.レポート(%) 4.課題成果(%) 5.実地試験(%)	評価方法はGPA制度となります 100~90点 S 89~80点 A 79~70点 B 69~60点 C 59点以下 F不合格	試験100%
受講生へのメッセージ	主体性を持って参加すること。 理解力の低い項目を中心に、必ず復習し、理解力の向上に努めること。		
【使用教科書・教材・参考書】	教科書全般配布資料		

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名(英)	柔道整復術適応の臨床的判断 (Clinical Judgment of Judo Therapy)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	山口 智一
学科	柔道整復科	授業形態	講義	総時間	30	開講区分	3学期
コース	Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(2)	曜日・時限	水・土曜日 2・3限

【授業の学習内容】

国家試験の出題基準が変更され、柔道整復学に大きな比重がおかれるようになってきた。本講義では柔道整復師として必要な外傷の知識を学ぶとともに、国家試験によく出題される外傷についてを学んでいく。

＊実務経験：7年以上専門学校の教育現場に従事し、また接骨院の施術にも従事していた。

【到達目標】

柔道整復学の内容を理解し、説明できるようにしていく。
【具体的な目標】
①臨床現場において必要な柔道整復の外傷を説明できる。
②国家試験の問題が解答できるよう習得させる。

授業計画・内容

1回目	顎関節脱臼について説明ができる
2回目	胸骨骨折・肋骨骨折について説明ができる
3回目	脊椎骨折について説明ができる
4回目	脊椎骨折について説明ができる
5回目	脊椎脱臼について説明ができる
6回目	上肢軟部組織損傷について説明ができる
7回目	上肢軟部組織損傷について説明ができる
8回目	上肢軟部組織損傷について説明ができる
9回目	下肢軟部組織損傷について説明ができる
10回目	下肢軟部組織損傷について説明ができる
11回目	下肢軟部組織損傷について説明ができる
12回目	頭部・体幹軟部組織損傷について説明ができる
13回目	頭部・体幹軟部組織損傷について説明ができる
14回目	総復習
15回目	総復習
準備学習時間外学習	【予習】 事前に教科書を熟読し、わからない単語を調べておく。 【復習】 配布した復習問題や配布資料の内容をまとめ理解を深める。
評価方法	1. 定期試験（100%） 2. 小テスト（%） 3. レポート（%） 4. 課題成果（%） 5. 実地試験（%）		筆記試験100%
受講生へのメッセージ	国家試験の出題基準が変更となり、学習内容が増えましたが、ポイントをしっかり抑えて国家試験合格できるようにしていきましょう。		

【使用教科書・教材・参考書】
教科書：柔道整復学理論編第6版（南江堂）、柔道整復学実技編第2版（南江堂）、配布資料

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名(英)	基礎柔道整復実技Ⅲ (Basic Judo Therapeatic Lab Ⅲ)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	小島 一政
学科	柔道整復科	授業形態	実技	総時間	90	開講区分	1学期
コース	昼間Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(3)	曜日・時限	木曜日 1～4限

【授業の学習内容】

認定実技試験における固定分野についての理論および実技を学ぶ。
柔道整復師において外傷に対する固定は必要不可欠な業務であり習得は必須となる。
本講義は自身の臨床の経験を十分に取り入れた教材を使用し、認定実技試験対策を行う。また、試験対策だけでなく、臨床現場に適応できるような実技、知識の習得を目指す。
※実務経験
1984年～1990年まで整形外科病院に勤務する。主業務は診察、外傷の整復・固定・リハビリテーションなど整形
外科疾患の診察から治療までを一貫して行っていた。1990年～小島接骨院開院。近医との医接連携による外傷治療を行っている

【到達目標】

認定実技試験における固定実技を口頭説明と同時に試験時間内にできるようになる

授業計画・内容

1回目	脱臼に対する固定法 [基礎] を習得する
2回目	脱臼に対する固定法 「応用] を習得する
3回目	脱臼に対する理論および固定法 [基礎] を習得する
4回目	脱臼に対する理論および固定法 「応用] を習得する
5回目	膝関節のXサポートテープを習得する
6回目	足関節捻挫に対するテーピング法を習得する
7回目	アキレス腱断裂に対するクラーメル金属副子固定法を習得する
8回目	足関節外側靭帯損傷の厚紙副子固定法を習得する
9回目	アキレス腱断裂に対するクラーメル金属副子固定法を再確認し、習得する
10回目	足関節外側靭帯損傷の厚紙副子固定法を再確認し、習得する
11回目	認定実技試験を想定した模擬試験形式の実技を行い、試験の流れを習得する
12回目	認定実技試験を想定した模擬試験形式の実技を行い、試験の流れをより確実に習得する
13回目	1学期の内容（脱臼に対する固定等）を復習し、認定実技試験合格程度の知識、技術を習得する
14回目	1学期の内容（軟部組織損傷に対する固定等）を復習し、認定実技試験合格程度の知識、技術を習得する
15回目	1学期の内容を総復習し、認定実技試験合格程度の知識、技術を習得する
準備学習 時間外学習	時間外の実技の復習が必要。 実技は練習の回数が非常に大事になる。常に固定材に触れ、固定法の感覚をつかむこと。

評価方法	1. 定期試験（100%） 2. 小テスト（%） 3. レポート（%） 4. 課題成果（%） 5. 実地試験（%）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	定期試験100%

受講生へのメッセージ	認定実技・固定法の総復習になります。口頭で説明しながら時間内にできるようになる。どんな体型の人のも対応できるようになるのが目標です。白衣、短パンが基本です
【使用教科書・教材・参考書】	認定実技解説本実技バッグ

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名(英)	基礎柔道整復実技Ⅲ (Basic Judo Therapeatic Lab Ⅲ)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	小島 一政
学科	柔道整復科	授業形態	実技	総時間	90	開講区分	2学期
コース	昼間Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(3)	曜日・時限	木曜日 1～4限

【授業の学習内容】

認定実技試験における固定分野についての理論および実技を学ぶ。
柔道整復師において外傷に対する固定は必要不可欠な業務であり習得は必須となる。
本講義は自身の臨床の経験を十分に取り入れた教材を使用し、認定実技試験対策を行う。また、試験対策だけでなく、臨床現場に適応できるような実技、知識の習得を目指す。
※実務経験
1984年～1990年まで整形外科病院に勤務する。主業務は診察、外傷の整復・固定・リハビリテーションなど整形
外科疾患の診察から治療までを一貫して行っていた。1990年～小島接骨院開院。近医との医接連携による外傷治療を行っている

【到達目標】

認定実技試験における固定実技を口頭説明と同時に試験時間内にできるようになる

授業計画・内容	
1回目	骨折に対する固定 [基礎] の再確認をし、習得する
2回目	骨折に対する固定 「応用] の再確認をし、習得する
3回目	脱臼に対する固定 [基礎] の再確認をし、習得する
4回目	脱臼に対する固定 「応用] の再確認をし、習得する
5回目	軟部組織損傷に対する固定 [基礎] の再確認をし、習得する
6回目	軟部組織損傷に対する固定 「応用] の再確認をし、習得する
7回目	骨折、脱臼、軟部組織損傷に対する固定の復習をし、習得する
8回目	骨折に対する理論の説明、および固定を一連して行えるようになる
9回目	骨折に対する理論の説明、および固定を一連してより的確に行えるようになる
10回目	脱臼に対する理論の説明、および固定を一連して行えるようになる
11回目	脱臼に対する理論の説明、および固定を一連してより的確に行えるようになる
12回目	軟部組織損傷に対する理論の説明、および固定を一連して行えるようになる
13回目	軟部組織損傷に対する理論の説明、および固定を一連してより的確に行えるようになる
14回目	2学期までの内容を総復習し、認定実技試験合格程度の知識、技術を習得する
15回目	2学期までの内容を総復習し、認定実技試験合格程度の知識、技術をより確実に習得する
準備学習 時間外学習	時間外の実技の復習が必要。実技は練習の回数が非常に大事になる。常に固定材に触れ、固定法の感覚をつかむこと。

評価方法	1. 定期試験(100%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C 59点以下　F不合格	定期試験100%
受講生へのメッセージ	認定実技・固定法の総復習になります。口頭で説明しながら時間内にできるようになる。どんな体型の人のも対応できるようになるのが目標です。白衣、短パンが基本です		

【使用教科書・教材・参考書】	認定実技解説本実技バッグ

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名(英)	基礎柔道整復実技Ⅲ (Basic Judo Therapeatic Lab Ⅲ)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	小島 一政
学科	柔道整復科	授業形態	実技	総時間	90	開講区分	3学期
コース	昼間Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(3)	曜日・時限	木曜日 1～4限

【授業の学習内容】

柔道整復理論および整形外科疾患の知識を復習する。柔道道整復業務において整形外科疾患に遭遇する機会は非常に多い。知識、検査法等の技術の習得がなければ、業務範囲であるかどうか等を判断することが難しい。その為、本講義では柔道整復学を交えながら整形外科的疾患へのアプローチ法、判断力を養っていく。
＊実務者経験：1984年～1990年まで整形外科病院に勤務する。主業務は診察、外傷の整復・固定・リハビリテーションなど整形外科疾患の診察から治療までを一貫して行っていた。1990年～小島接骨院開院。近医との医接連携による外傷治療を行っている

【到達目標】

柔道整復理論および整形外科疾患について理解し適切な処置が判断できる

授業計画・内容	
1回目	1. オリエンテーション 2. 感染性疾患について理解し説明できる
2回目	感染性疾患について適切な処置を判断できる
3回目	骨腫瘍 [基礎] について理解し、適切な処置を判断できる
4回目	骨腫瘍 [応用] について理解し、適切な処置を判断できる
5回目	軟部腫瘍について理解し、適切な処置を判断できる
6回目	非感染性骨関節疾患 [基礎] について理解し、適切な処置を判断できる
7回目	非感染性骨関節疾患 [応用] について理解し、適切な処置を判断できる
8回目	非感染性骨関節疾患 [基礎及び応用] について深く理解し、適切な処置を判断できる
9回目	骨系統疾患 [基礎] について理解し、適切な処置を判断できる
10回目	骨系統疾患 [応用] について理解し、適切な処置を判断できる
11回目	四肢循環障害 [基礎] について理解し、適切な処置を判断できる
12回目	四肢循環障害 [応用] について理解し、適切な処置を判断できる
13回目	末梢神経疾患 [基礎] について理解し、適切な処置を判断できる
14回目	末梢神経疾患 [応用] について理解し、適切な処置を判断できる
15回目	末梢神経疾患 [基礎及び応用] について深く理解し、適切な処置を判断できる
準備学習 時間外学習	予習及び復習を必須とする。予習する事で授業効果が上がり、復習する事で学習効果が上がる。また、配布されたプリント等は整理し、いつでも簡単に閲覧できる状態にしておくこと。

評価方法			
	1. 定期試験(100%) 2. 小テスト(%) 3. レポート(%) 4. 課題成果(%) 5. 実地試験(%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	定期試験100%
受講生へのメッセージ	整形外科学(第4版)が必要です。本講義は臨床においても非常に重要になってきます。来年度には臨床に立ち患者と接するという事を意識しながら、参加してください。		

【使用教科書・教材・参考書】	認定実技解説本実技バッグ

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名(英)	柔道整復実技Ⅲ (Clinical PracticeⅢ)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	米女 博司
学科	柔道整復科	授業形態	講義・演習	総時間	60	開講区分	1学期
コース	Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(2)	曜日・時限	月・火曜日 2・3限

【授業の学習内容】

認定実技審査範囲の外傷・障害について学習する。
各外傷の模擬整復・検査を行うにあたり、臨床に即した手順を踏んで模擬整復を行う。1、来院肢位の確認 2、発生機序の聴取 3、患部の確認 4、合併損傷の有無の確認 5、整復操作、検査を実施 6、整復の確認、検査結果の評価 7、合併損傷の再確認 授業ではそれぞれの外傷・損傷部位の局所解剖を確認し、どのような外力がどのように影響して、どのような外傷が発症するのかを考えながら模擬整復・検査を行う。授業では模擬整復であるが、できる限り本物の外傷を扱っていることを考え、イメージしながら行うことが重要である。 今まで練習してきた技術をより詳細に行うことが出来るように努力すること。
※実務経験
柔道整復専科教員免許取得教員

【到達目標】

・損傷部位の局所解剖を理解する。
・模擬整復・検査終了までの手順を理解する。
・整復・検査についての患者への説明ができるようになる。
・助手への指示を行いながら、流れを説明できるようになる。

授業計画・内容	
1回目	膝部損傷 － 膝関節の局所解剖、機能解剖を理解し、膝部損傷の理論を理解することが出来るようになる。
2回目	膝内(外)側々副靭帯損傷 － 膝内(外)側々副靭帯損傷の診察の流れ、診察、検査法について理解して出来るようになる。
3回目	膝内(外)側々副靭帯損傷 － 膝内(外)側々副靭帯損傷の診察の流れ、診察、検査法について理解して出来るようになる。
4回目	膝十字靭帯靭帯損傷 － 膝十字靭帯靭帯損傷損傷の診察の流れ、診察、検査法について理解して出来るようになる。
5回目	膝十字靭帯靭帯損傷 － 膝十字靭帯靭帯損傷損傷の診察の流れ、診察、検査法について理解して出来るようになる。
6回目	内(外)側半月損傷 － 膝十字靭帯靭帯損傷損傷の診察の流れ、診察、検査法について理解して出来るようになる。
7回目	内(外)側半月損傷 － 膝十字靭帯靭帯損傷損傷の診察の流れ、診察、検査法について理解して出来るようになる。
8回目	下腿部、足部損傷 － 下腿部、足部の局所解剖、機能解剖を理解し、下腿三頭筋肉離れ、足関節捻挫の理論を理解することが出来るようになる。
9回目	下腿三頭筋肉離れ － 下腿三頭筋肉離れの診察の流れ、診察、検査法について理解して出来るようになる。
10回目	下腿三頭筋肉離れ － 下腿三頭筋肉離れの診察の流れ、診察、検査法について理解して出来るようになる。
11回目	足関節内反捻挫 － 足関節内反捻挫の診察の流れ、診察、検査法について理解して出来るようになる。
12回目	足関節内反捻挫 － 足関節内反捻挫の診察の流れ、診察、検査法について理解して出来るようになる。
13回目	認定実技審査出題項目を総合的に復習し、各外傷の診察及び整復(検査)を理解し出来るようになる。
14回目	学期末試験
15回目	学期末試験及び解説
準備学習時間外学習	実技授業でにクラスメイトと模擬整復操作練習が出来るように、各外傷部位の局所解剖、整復理論をしっかり復習すること。(局所解剖や整復理論を文字で理解することも大切であるが、実技授業では立体的視覚的に把握することが重要である。局所解剖や整復操作を描写するなどしてイメージ化する努力をする。)
評価方法	実地試験(100%) 出席・欠席数を加味して評価する	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格	
受講生へのメッセージ	実技授業の際にクラスメイトと模擬整復操作・検査ができるように、各外傷・損傷部位の局所解剖、整復理論をしっかり理解しておくこと。局所解剖や整復理論を文字で理解することも大切であるが、立体的視覚的に把握することが重要である為、外傷や整復操作を描写するなどしてイメージ化する努力をする。		

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：解剖学、柔道整復理論、柔道整復実技及び配布資料

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名(英)	柔道整復実技Ⅲ (Clinical PracticeⅢ)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	米女 博司
学科	柔道整復科	授業形態	講義・演習	総時間	60	開講区分	2学期
コース	Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(2)	曜日・時限	月・火曜日 2・3限

【授業の学習内容】

認定実技審査範囲の外傷・障害について学習する。
各外傷の模擬整復・検査を行うにあたり、臨床に即した手順を踏んで模擬整復を行う。1、来院肢位の確認 2、発生機序の聴取 3、患部の確認 4、合併損傷の有無の確認 5、整復操作、検査を実施 6、整復の確認、検査結果の評価 7、合併損傷の再確認
授業ではそれぞれの外傷・損傷部位の局所解剖を確認し、どのような外力がどのように影響して、どのような外傷が発症するのかを考えながら模擬整復・検査を行う。授業では模擬整復であるが、出来る限り本物の外傷を扱っていることを考え、イメージしながら行うことが重要である。今まで練習してきた技術をより詳細に行うことが出来るように努力すること。
※実務経験
柔道整復専科教員免許取得教員

【到達目標】

・損傷部位の局所解剖を理解する。
・模擬整復・検査終了までの手順を理解する。
・整復・検査についての患者への説明が出来るようになる。
・助手への指示を行いながら、流れを説明出来るようになる。

授業計画・内容	
1回目	定型的鎖骨骨折、肩鎖関節上方脱臼 −鎖骨骨折、肩鎖関節脱臼の類似点、相違点を確認し理解を深め、審査に対応することが出来る。
2回目	定型的鎖骨骨折、肩鎖関節上方脱臼 −鎖骨骨折、肩鎖関節脱臼の類似点、相違点を確認し理解を深め、審査に対応することが出来る。
3回目	上腕骨外科頚骨折、肩関節前方脱臼−上腕骨外科頚骨折、肩関節脱臼の類似点、相違点を確認し理解を深め、審査に対応することが出来る。
4回目	上腕骨外科頚骨折、肩関節前方脱臼−上腕骨外科頚骨折、肩関節脱臼の類似点、相違点を確認し理解を深め、審査に対応することが出来る。
5回目	コーレス骨折の骨片転位を立体的に理解して整復操作を行うことで、理解を深め審査に対応することが出来る。
6回目	肘関節後方脱臼、肘内障 − 肘脱臼と肘内障の相違点を理解することが出来る。
7回目	腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷の診察及び検査について理解して行うことが出来る。
8回目	大腿四頭筋打撲、ハムストリングス損傷の診察及び検査について理解して行うことが出来る。
9回目	膝部損傷（側副靭帯損傷、十字靭帯損傷、半月板損傷）の診察及び検査について理解して行うことが出来る。
10回目	膝部損傷（側副靭帯損傷、十字靭帯損傷、半月板損傷）の診察及び検査について理解して行うことが出来る。
11回目	下腿三頭筋肉離れ、足関節内反捻挫の診察及び検査について理解して行うことが出来る。
12回目	下腿三頭筋肉離れ、足関節内反捻挫の診察及び検査について理解して行うことが出来る。
13回目	認定実技審査試験項目を総合的に復習し、認定実技審査受験に必要な知識及び技術を修得することが出来る。
14回目	認定実技審査試験項目を総合的に復習し、認定実技審査受験に必要な知識及び技術を修得することが出来る。
15回目	認定実技審査
準備学習時間外学習	実技授業でにクラスメイトと模擬整復操作練習が出来るように、各外傷部位の局所解剖、整復理論をしっかり復習すること。(局所解剖や整復理論を文字で理解することも大切であるが、実技授業では立体的視覚的に把握することが重要である。局所解剖や整復操作を描写するなどしてイメージ化する努力をする。)
評価方法	認定実技審査の結果で評価する	評価方法はGPA制度となります 100〜90点 S 89〜80点 A 79〜70点 B 69〜60点 C 59点以下 F不合格
受講生へのメッセージ	実技の授業は局所解剖を理解し、理論を理解して初めて出来るものである。基礎知識、理論の理解なしで実技を行うことは、一つのやり方をまるまる暗記することに過ぎない。各外傷の種々なケースにも対応していくためには局所解剖、柔整理論を理解し考えながら実技を行う必要がある。常に本物の外傷を扱っているイメージで実技授業に臨んでもらいたい。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：解剖学、柔道整復理論、柔道整復実技及び配布資料

名古屋医健スポーツ専門学校　2023年度 シラバス

科目名 (英)	臨床実習Ⅱ (　Clinical Training Ⅱ　)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	米女　博司
学科	柔道整復科	授業 形態	講義・演習	総時間	90	開講区分	2学期
コース	Ⅰ部・Ⅱ部			(単位)	(2)	曜日・時限	各曜日　実習先

【授業の学習内容】

学外実習を行います。
各々学生が配置された接骨院・施設に出向き、臨床勤務している柔道整復師の指導に基づき、実際に接骨院・施設で提供されている施術を見て学び、管理柔道整復師の指導の下、施術の補助を行う。
実習期間は12日間（1日8時間）

【到達目標】

①医療従事者としての自覚を持ち、責任ある行動が出来る。
②患者に対して適切の行動が出来る
③患者の抱える問題点に共感出来る。
④他者の意見を聞くことが出来る。
⑤自己の問題点、不足点を抽出し解決する方法を述べることが出来る。

授業計画・内容

1回目	臨床実習の到達目標に加えて下記の内容を実施する。 1　患者に対し医療面接が出来る。 来院肢位、発生機序から損傷部位、損傷程度を想像し考えることが出来る。 2　患者に対し臨床実習指導者が指示した身体診察法が出来る。 来院肢位、発生機序、患部の確認（一般外傷症状、骨折、脱臼の固有症状）の重要性を理解し、説明することが出来る。 3　安全性を考慮できる。 待合室、施術質の環境を配慮し患者の安全に配慮することが出来る。 4　自身と環境等の清潔保持を考慮できる。 頭髪、爪、白衣など自分自身に気を配り、清潔保持に努めることが出来る。 5　整復操作の重要ポイントを把握し、説明することが出来る。 術者、患者、助手の位置関係など整復時の重要事項を理解し、説明することが出来る。 6　固定の重要ポイントを把握し、説明することが出来る。 固定材料の特性を理解し、患部の不安定性を考慮して固定方法を選択することが出来る。 7　臨床実習指導管理者が指示した後療法を理解し、説明することが出来る。 関節可動域改善、筋力強化の方法および物理療法機器について理解し、説明することが出来る。 8　柔道整復師の業務範囲や健康保険制度を理解し、説明することが出来る。
90回目	業務範囲を理解すると同時に療養費受領委任制度について理解し、説明することが出来る。
準備学習時間 外学習	解剖学・生理学・運動学といった基礎科目を基に柔道整復理論や柔道整復学実技の知識の復習および評価や手技療法の復習を行っておくこと

評価方法	1. 定期試験（%） 2. 小テスト（%） 3. レポート（50%） 4. 課題成果（%） 5. 実地試験（50%）	評価方法はGPA制度となります 100~90点　S 89~80点　A 79~70点　B 69~60点　C 59点以下　F不合格	レポート50%、課題成果50%
受講生への メッセージ	実習施設は学校と契約を交わし、愛知県に登録された施設で行う。 何が必要で何を求められているのか、指示されて動くのではなく予測して判断すること。主体的に取り組むこと。		

【使用教科書・教材・参考書】

解剖学、生理学、運動学、柔道整復学（理論編）、柔道整復学（実技編）その他臨床に関する参考書